

# 市政ニュース

〜豊岡のクルーも健闘〜

## 第20回全国市町村交流レガッタ開催

9月24・25日の2日間、円山川城崎漕艇場および菊屋島運動公園で、「第20回全国市町村交流レガッタ豊岡大会」を開催しました。

同大会は、ボート場のある各市町村の住民レガッタの代表が日頃の成果を競い、交流の輪を広げることを目的に、平成4年から開催されています。

今年、茨城県潮来市で開催される予定でしたが、東日本大震災の影響で開催を辞退され、要請を受けて、本市で開催することになりました。

今大会には、全国25市町村（北は秋田県大潟村から南は鹿児島県薩摩川内市まで）から106クルー・約800人が参加しました。

男女別で成年の部、壮年の部、熟年の部と議会議員の部、議会議員シニアの部の計8部門でレースが行われ、各部門



▲力強くスタートを切る選手たち

1位から6位が表彰を受けました。

今大会から設けられた男女総合、女子総合はどちらも長野県下諏訪町が栄冠に輝きました。

地元豊岡からは9クルーが参加しましたが、惜しくも入賞はありませんでした。

来年度も豊岡での開催が予定されていますので、熱戦を期待ください。

〜大型マルチビジョンによる迫力ある豊岡市PR〜

## 「ついで旅」豊岡@Osaka Station City

大阪の新しいランドマークとして誕生した大阪ステーションシティは、多くの方の来場スポットになっています。

そこに設置された「大阪マルチビジョン48」で、本市観光プロモーションビデオ「ひとつ旅。豊岡」を9月5日から10月2日まで放映しました。「シャープ」や「ドコモ」、「ココロ」などの名だたるブ



▲豊岡の魅力を繰り返し放映

## 持続可能な公共交通を目指して〜神鍋線「上限200円バス社会実験事業」スタート

10月1日、神鍋線「上限200円バス」社会実験がスタートしました。

この社会実験は、豊岡市全体の将来のバス交通のあり方を見極める大変重要な事業です。スタートに先立ち、市、運行事業者、および地域の利用促進組織「神鍋線乗って守ろう市民運動推進協議会」が、それぞれの役割と責任を果たすことを確認する「協定書」を締結しました。

実験中は、最大で680円



▲江原駅を出発する神鍋高原行きバス

掛かる運賃を上限200円に設定し、通学・通勤用などに対応できる朝晩便を増便しています。

〜主な市政の動き〜

【9月】

- 12日 台風12号被災地和歌山県古座川町へ職員派遣（16日、26〜30日）
- 13日 豊岡エクスカーション2011（〜14日）
- 21日 東京大学 豊岡実習（〜24日）
- 23日 第1回防災学習会
- 24日 全国市町村交流レガッタ豊岡大会（〜25日）
- 28日 新潟県三条市へ市職員長期派遣（〜12月23日）

【10月】

- 1日 神鍋線「上限200円バス社会実験事業」スタート
- 三省堂書店の文庫本ブックカバーおよび葉に本市イメージ広告掲出（〜31日）
- 日本ジオパーク全国大会「洞爺湖有珠山大会」（北海道洞爺湖町）参加
- 東日本大震災被災地への当面支援が終了
- 目の愛護デーイベント「守ろう180000のひとみ」
- 宮城県美里町長が災害復興支援お礼来訪

# 市職員や災害支援ボランティア派遣、義援金など、東日本大震災や新潟・福島豪雨、台風12号の被災地を支援

## 東日本大震災被災地の支援

関西広域連合支援として、宮城県南三陸町へ市職員を派遣（豊岡市第24陣まで）してきましましたが、10月1日をもって、当面の派遣を終了しました。

## 新潟・福島豪雨被災地の支援

7月の新潟・福島豪雨災害で農地、農業施設などに甚大な被害を受けた新潟県三条市からの要請により、災害復旧経験のある本市技術職員を9月28日から12月23日まで長期

## 台風12号の被災地支援

市は、台風12号により全世帯の約3分の1以上が床上浸水という大きな被害を受けた和歌山県古座川町へ、市職員を派遣（9月12～16日、26～30日）し、災害廃棄物の処理を支援しました。

また、豊岡市社会福祉協議会と市では、「台風12号災害支援ボランティア」を募り、9月17日から19日まで同県那智勝浦町へ災害救援ボランティア



古座川町へ向かう災害廃棄物処理支援隊  
 ▲古座川町へ向かう災害廃棄物処理支援隊。10月に募り、甚大な被害のあった和歌山・奈良・三重県の災害対策本部に届けます。

さらに、豊岡市区長連合会と市は、台風12号の被災地に贈る義援金を10月に募り、

# ごみ(資源)分別が優れた豊岡市に対し、(財)日本容器包装リサイクル協会から拠出金が配分されました

平成22年度の(財)日本容器包装リサイクル協会のリサイクル事業にかかる費用がまとまり、市が協会にリサイクル処理を委託しているプラスチック製容器包装とペットボトルについて、異物の混入や汚れの程度が優れていると判定され、費用の低減化に貢献したとして、協会から「再商品化合理化拠出金」を受け取りま

した。拠出金は、平成20年度から毎年度受けています。これは、市民のごみ分別に対する理解と実践、家庭ごみ収集委託業者や豊岡清掃センターでの品質管理の徹底によるものと思われまます。今後、ごみの適正分別処理に協力ください。

## 再商品化合理化拠出金額

576万6501円  
 各自治体から引き渡されたリサイクル収集物のリサイクルに必要と想定していた費用に対し、実際に掛かった費用が下回り、協会から分別の質が優れているなどの認定を受けた自治体は、差額の2分の1を拠出金として受け取るこ

# 中貝市長の徒然日記 ④8

## 洞爺湖有珠山から

日本ジオパーク会議で、北海道の洞爺湖・有珠山に行ってきました。世界ジオパークに認定された場所です。最近では平成12年に噴火しています。過去に何度も噴火を起こしています。地元専門家に言わせると、平成12年の噴火はくしゃみみたいなもので、十分エネルギーを出し切っていないので、いずれまた、とのことでした。

ここには火山マイスターというジオガイドの方々がおられます。口々に、これまでに3回噴火を経験した、避難所生活をしたり、船で奇跡の脱出をし、みんな助かった、というような話をされます。で、パネルディスカッションで、思わず聞いてしまいましたが、「人生で3回噴火にあっした。家をなくした、4回目ももうすぐやっておっしゃるんですが、なんでそんな所に住んでるんですか？」

会場に笑いが起きました。ホテル経営者、「そりゃ、8億円も借金抱えていて、逃げられなかった(笑い)。でも、ま、やっぱりここが好き。じい様は魚釣りが好きでここに、親戚まで呼び寄せました」

会議終了後、ジオツアーに参加しました。ところどころ白い煙が上がっています。飛んできた岩で天井や窓が破れた幼稚園、押しつぶされた民家、1階が埋まってしまった町営住宅、押し流された橋。住民の働きかけで、未来への伝言として残されています。ガイドは、京都から移り住んだ男性でした。何十年か前に一度、噴火があります。避難所生活も経験しました。でも、噴火も逃げれば大丈夫。後は、とっても素敵です。いつそ、洞爺湖に住みませんか？」

